

流行状況

手足口病 夏かぜの一つ。ウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染

口の中、手や足の先の水疱性発疹

・ **夏のウイルス感染症**

- ・ 定点当たりの報告数は 0.64 (前週 0.62) と **同程度に推移**

ヘルパンギナ 夏かぜの一つ。ウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染

咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍

・ **夏のウイルス感染症**

- ・ 定点当たりの報告数は 0.53 (前週 0.69) と **やや減少**

麻疹 (はしか)

- ・ 定点当たりの報告数は 0.06 (前週 0.14) と **やや減少**

- ・ 予防には **ワクチンが有効**

無菌性髄膜炎 細菌以外のウイルス等による髄膜炎のこと。

- ・ 基幹定点から **2 例** の患者報告あり。
- ・ **エコ - ウイルス 13 型** による無菌性髄膜炎の **流行に注意**

マイコプラズマ肺炎 マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が

特徴的な肺炎

- ・ 基幹定点から **2 例** の患者報告あり。
- ・ **5 定点** から **コメント** での患者発生報告あり。

感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌 O1 37 歳女

病原性大腸菌 O18 30 歳女、2 歳女

病原性大腸菌 O86 60 歳女

伝染性紅斑病 1 歳男

(尾西市 城後小児科)

手足口病が少しありましたが、他に目立った感染症はありませんでした。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

水痘、ムンプス、ありました。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

3 歳男、8 歳女、14 歳男 EB ウイルス感染症

82 歳女 病原大腸菌 O56a 検出されました。

(春日町 丹羽医院)

< 34 週コメント追加 >

手足口病、ムンプス、ヘルパンギーナが少々あります。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

< 34 週コメント訂正 >

前週掲載の城後小児科のコメントの転記に誤りがありましたので、以下の通り訂正させていただきます。

炎症反応の弱い発熱性疾患がふえています。発疹も多く比較的臨床症状は軽微ですが、39 度前後の発熱が 3 から 4 日間続きます。何かのウイルスであろうということ以外は不明です。

尾張東部地区

カンピロバクター腸炎 5歳男
目立った感染症はありません。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

ヘルパンギーナ、手足口病みられなくなりました。

伝染性紅斑家族内発症あり。(3歳男 父親38歳)

今週もマイコプラズマ感染症みられます。

カンピロバクター家族内発症例 姉6歳、弟3歳(弟はO143も検出)

(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)

カンピロバクター腸炎 7歳男

サルモネラ s p O8群 1歳男

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

39~40の発熱の続いた(4日間)マイコプラズマ肺炎の11歳女例がありました。

(春日井市 かちがわ北病院)

マイコプラズマ肺炎流行しています。

(小牧市 小牧市民病院)

マイコプラズマ 4歳女、10~14歳 男1例

(小牧市 医療法人心正会鈴木小児科)

西三河地区

病原性大腸菌 O153 2歳女

病原性大腸菌 O1 1歳男

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

カンピロバクター 13歳女、8歳女

サルモネラ s p O7群 2歳女

(豊田市 医療法人やふそ小児科)

4歳女 4S (ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群*)

(岡崎市 医療法人深田小児科)

*ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群：リッタ - 病とも言い、ブドウ球菌の毒素により
主に乳幼児に表皮剥脱とびらんを生じる。

4歳男 病原大腸菌 O15

5歳女 病原大腸菌 O8

(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)

7歳女 マイコプラズマ肺炎

5ヵ月女 サルモネラ O8

(幸田町 とみた小児科)

伝染性紅斑：散発

(碧南市 永井小児クリニック)

東三河地区

2歳男 サルモネラO9、4歳男 サルモネラO9

(豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科)

3歳男、7歳女 *E. coli* O18

(田原町 かわせ小児科)

1～3類感染症の発生状況

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	豊田市	1	女	8/18	8/22	8/27	O26 VT1(+) VT2(+)	感染経路不明
2	豊田市	38	女	8/23	8/24	8/28	O157 VT2(+)	感染経路不明
3	岡崎	3	女	8/28	8/28	8/31	O26 VT1(+)	感染経路不明
4	春日井	1	男	8/15	8/15	8/26	O26 VT1(+) VT2(+)	感染経路不明 <再掲>
5	豊川	6	男	8/20	8/20	8/23	O26 VT1(+) VT2(+)	感染経路不明
6	豊川	60	女		8/24	8/27	O26 VT1(+) VT2(+)	感染経路不明
7	西尾	6	男		8/23	8/26	O157 VT2(+)	感染経路不明
8	西尾	7	女	8/26	8/27	8/30	O157 VT1(+) VT2(+)	感染経路不明
*	衣浦東部	27	女	8/13	8/17	8/19	菌型不明 ベロ毒素産生	感染経路不明 34週分菌型訂正
*	一宮	53	女		8/20	8/24	O157 VT1(+) VT2(+)	症状無し 感染経路不明 34週分性別訂正

全数把握の4類感染症の発生状況

急性ウイルス性肝炎 1例 (B型) 感染経路：性的接触

レジオネラ症 1例 感染経路：不明

無症候性梅毒 1例

第33週(14年8月12日~8月18日)の4類感染症の全国状況

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

水痘は引き続き減少を続けているが、定点当たり報告数は過去5年間の同時期と比べてやや多くなっている。都道府県別の定点当たり報告数では、特に目立った所はない。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は3週連続して減少し、1999年から2001年の平均の報告数の1.8倍程度となり、都道府県別では岡山県(1.8)からの報告が多い。他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて多くなってはいない。感染性胃腸炎は、7週間ぶりに過去5年間の同時期と比べて定点当たり報告数が特別多くはなくなったが、都道府県別では大分県(3.9)、宮崎県(3.8)からの報告数が多い。手足口病とヘルパンギーナの定点当たり報告数は夏のピークを超え、減少している。都道府県別では前者が鳥取県(3.4)、和歌山県(2.6)、岡山県(2.5)、後者が三重県(3.1)、青森県(3.1)、長野県(2.9)からの報告が僅かに多い。咽頭結膜熱とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少を続けている。都道府県別では前者が佐賀県(0.3)でやや多く、後者は佐賀県(1.0)、熊本県(0.7)、大分県(0.7)、宮崎県(0.7)と九州地区からの報告が多い。流行性耳下腺炎と流行性角結膜炎の定点当たり報告数も減少しているが、都道府県別で前者が宮崎県(3.6)からの報告が多く、後者は宮崎県(6.0)、群馬県(5.4)からの報告数が多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

朝の出勤時、真黒に日焼けした小学生や高校生に出会います。プールで毎日遊んだか、部活で鍛えられたか。それにしても暑さのぶり返しがこたえます。いつも貴重な情報を有難うございます。

8 月前半 / 後半のまとめをお送りします。

- 1 名古屋地区：ECHO 13 型の無菌性髄膜炎の流行は峠をこしたようです。その後の先生方からのお手紙では前回同様、脳炎脳症などの重症中枢神経合併症の頻度は幸いなことに低いようです。分離ウイルスの検査結果もそれほど中枢神経系に障害をきたすような所見はないようです。その他、名鉄病院宮津先生からはヘルパンギ - ナや手足口病は例年より少なく、肺炎（マイコプラズマは少ないが肺炎球菌が目立つ）、膿痂疹時々、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎（乳幼児で発熱 38 台 + 下痢。嘔吐なし）、手足口病、水痘が時々、三菱病院岩間先生からは手足口病、溶連菌感染症、感染性腸炎（病原性大腸菌 O143、O18。脱水による入院例：カンピロバクタ - 、サルモネラ）、ムンプス、RSウイルスによる急性気管支炎、気管支肺炎、中京病院柴田先生からはヘルパンギ - ナと手足口病、中部労災病院山田先生からは膿痂疹、溶連菌感染症、夏カゼ、細菌性腸炎（カンピロ + 病原性大腸菌）、ムンプス、仮性クル - プ、マイコプラズマ肺炎などのお手紙をいただきました。
- 2 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、ムンプス散発中、愛北病院露木先生からは水痘、ムンプスがまだみられムンプス髄膜炎 1 例、膿痂疹がやや多く麻疹 1 例、瀬戸陶生病院山口先生からはマイコプラズマ肺炎、重症水痘あり、常滑市民病院上田先生からは手足口病、ヘルパンギ - ナ、アデノウイルス感染症（脱水による入院例あり）、細菌性腸炎（サルモネラ、カンピロバクタ - など）、ウイルス性腸炎（脱水による入院例あり）が目立つとのことのお手紙でした。
- 3 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは麻疹減少、知立市近藤先生からは水痘が散発中、感冒性下痢がやや多くマイコプラズマ肺炎が目立ちカンピロバクタ - 2 例、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎が目立ち（サルモネラが時々あり）、ヘルパンギ - 散発中、豊橋市からは毛細気管支炎、ヘルパンギ - ナ、伝染性紅斑の少数例と細菌性腸炎目立つとのことのお手紙でした（市内長屋先生、宮澤先生）。
有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2002 年 7 月 19 日号 (77 巻 29 号)

麻痺性ポリオ。マダガスカル：3 月 21 日 - 4 月 12 日、同国東南部で 4 例の集団発生。全例ワクチン未終了。発生地区の小規模戸別集団接種開始。分離ウイルスは 2 型。ワクチン由来株で遺伝的変異と非ポリオウイルスとの遺伝子組替え株の可能性があり、現在検索中。これまでワクチン株由来ポリオウイルスの麻痺性ポリオ発生は 3 事例の報告があり、いずれもワクチン接種率が低くポリオ患者サ - ベイランスが適切に実施されていない地域である。マダガスカルの場合ポリオワクチンの 1 歳未満接種率は 99 年で 37%、01 年の非ポリオウイルスによる麻痺例届出率は低率に止まっている。同国厚生省は W H O、ユニセフとともに対策を進捗中。

新生児破傷風。ナイジェリア。01 年 8 - 9 月、ナイジェリア厚生省は W H O の協力を得て新生児破傷風について代表的な 4 地区で事前に訓練された保健担当者による戸別調査を実施した。調査出来たのは 4,894 世帯、25,853 名、1 世帯当たりの人数 5.3、粗出生率 77.4 / 1,000。生後 29 日以前の死亡は 35、新生児破傷風による死亡は 8 (4 / 1,000 出生)、新生児破傷風確実例は 1,000 出生当たり 2 となっている。新生児破傷風死亡例について 35 例の母親から情報が得られた：平均死亡は 8 日、57%の母親が妊娠中破傷風トキソイド非接種、68%が健診を受けていない。62%が医療機関で分娩せず、52%が地面に出産、35%が不潔な臍帯切断を行なっている。死亡前に医療機関受診者は 6 例 (18%)、17 例 (50%) が受診、6 例 (18%) が他の手段 (宗教、伝統的治療、など)、となっている。ワクチン接種率などについて詳細な表あり。

皮膚ライシュマニア症。アフガニスタン。後遺症として皮膚の変形がのこるライシュマニア症が避難民、女性、小児で多発している。W H O は 120 万ドルの資金援助をむこう 2 年間実施、予防と治療に取り組む予定。

インフルエンザ (02 年 7 月)。ブラジル：A (H3N2) 散発。東南部で B 発生。香港：5 月第 3 週からインフルエンザウイルス分離陽性例増加中。

7 月 12 日 - 18 日届出。コレラ：ウガンダ、香港 (輸入例)、ペスト：マダガスカル、マラウィ、モザンビク、ウガンダ、タンザニア、カザクスタン。

2002年7月26日号(77巻30号)

オンコセルカ症 (River blindness、ブヨが媒介するフィラリア感染症。熱帯途上国の河ぞいに多発する)。01年11月26-29日、全米オンコセルカ症根絶計画会議がメキシコで開催。現在南北アメリカにおける常在国：コロンビア、エクアドル、グアテマラ、メキシコ、ベネズエラの様子が報告された。対策の主体である薬剤による治療は地域全体としては80%となったが国によって50%-100%の開きがある。

食品中のアクリルアミド：02年6月25日-27日、WHO、FAO(国連食品農業機構)合同で食品中のアクリルアミド(食品を加熱すると発生、発癌性が危惧されている)に関する会議が開催された。今後調理中の発生機序、発癌に関する疫学調査、これまで報告されている欧州以外の地区の調査、など実施予定。

インフルエンザ(02年7月)：アルゼンチン。B型。オーストラリア。A型。ブラジル。A(H3N2)。ニュージーランド。A(H3N2)型。

愛知県感染症情報

2002年第1週～第35週(平成13年12月31日～平成14年9月1日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹	
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																						
愛知県 (名古屋市を含む)	191	182	35	51	13	35,688	465	5,122	25,478	9,377	5,395	1,814	4,466	61	103	6,419	2,112	6,529	16	708	2	7	96	67	1	22	
総数 (名古屋市は除く)	121	112	24	37	12	28,055	304	3,595	17,165	7,088	3,469	1,400	3,445	40	70	5,387	1,671	5,383	11	514	2	7	96	67	1	22	
名古屋市	70	70	11	14	1	7,633	161	1,527	8,313	2,289	1,926	414	1,021	21	33	1,032	441	1,146	5	194							
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2,301	36	523	1,204	464	479	45	201		6	185	80	408	2	21			34			
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1,229	14	76	1,129	409	150	104	146	1	7	373	80	275	1	29		1		2		
尾張中部	師勝	4	4	1	1		794	2	23	1,317	112	55	21	69		6	127	29	22	1	17						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	2,068	35	392	2,525	728	282	77	401	3	3	348	239	328	1	36			49			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	1,955	13	416	832	819	466	146	290	3	6	308	134	263		36		1		2	6	
	江南	6	6	1	2		1,780	47	357	1,586	476	175	95	85	1	5	393	67	241		29						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,319	31	98	539	274	128	231	158	2	3	122	134	249		14	2	1		1	12	
	知多	7	7	2	2		2,383	36	111	1,008	474	427	89	260	5	7	485	226	239		26						
西三河南部	岡崎	12	8	2	3	1	2,984	19	364	151	848	346	188	525	9	3	573	77	754		118						
	衣浦東部	11	11	2	4	1	3,475	10	294	1,065	751	190	116	322	6	8	590	211	296	2	21				1		
	西尾	4	4	1	1	1	281	4	59	485	231	36	14	82		6	240	23	120	1	55		1	11	1	3	
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	1,416	17	159	916	431	260	68	218	8	7	326	148	660		44			2	25		
	加茂	3	3		1		366	1	25	340	96	83	13	78			49	40	240								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	3,013	17	486	2,241	536	203	95	337		1	576	76	722	1	65		3		28		
	豊川	9	8	1	2	1	2,557	22	209	1,826	385	179	94	261	2	1	659	99	479	2	3				7	1	1
東三河北部	新城	2	2			1	134		3	1	54	10	4	12		1	33	8	87								

